

# とんぼ通信 152号

7月号

とんぼ小児科医院

臼杵市港町東1 4組 TEL63-5811

HP 外 以 <http://www.tobobaby.com>

発行責任者： 東保 裕の介

発行年月： 平成29年7月

## とんぼ小児科医院は、30年になりました！

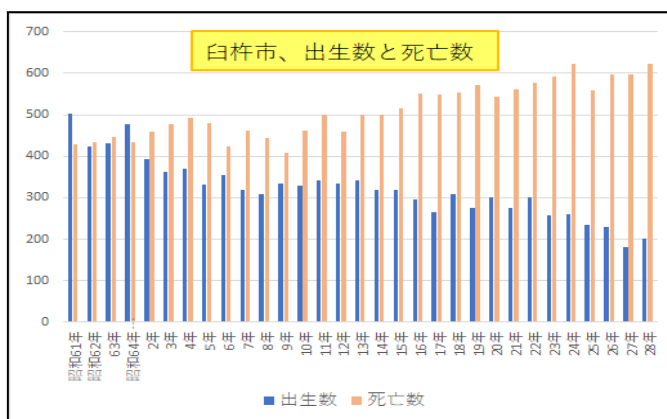


7月7日はとんぼ小児科の開院記念日です。昭和62年に開院し、今年7月7日でちょうど30年になりました。この30年間で、子どもの病気も子どもを取り巻く環境も大きく変わってきました。そして、数年前からやっと国も臼杵市も、子どもと子育て中の家族へ目を向けるようになり、予算もつけていただけるようになりました。今回はこの30年を振り返り、その感想を述べます。

とんぼ小児科医院 院長 東保裕の介

### 1. 生まれた子どもの数は？ (旧野津町を含む)

臼杵市の出生数(図1)は30年前は500名、20年前は330名、10年前は300名程度でしたが、最近では180名~200名です。30年前は、臼杵市の人口は自然増でしたが、現在は年間400名以上の自然減です。これに伴い、5歳以下の人口(図2)も2250名から1100名に減っています。子どもは「国の宝」です。今後は臼杵市民と行政が協力して知恵を出し合い、子どもを産みやすく、育てやすい臼杵市を目指しましょう。



(図1)

### 2. 麻疹(はしか)は？

昔から「命定め(めいじょうめ)の病気」として恐れられていた麻疹は、日本中で30年前でも毎年30万人以上がかかり、100人以上子どもが死亡していました。開業当時でも、たくさんの麻疹の患者さんを見て、平成2年には一人の子どもがなくなりました。その後、ワクチンの接種率が上がり、2回接種も普及し、臼杵市では2009年(8年前)を最後に麻疹の報告はありません。2010年を最後に日本中から日本土着の麻疹株はなくなり、2015年に世界保健機構(WHO)は日本からの麻疹排除宣言をしました。しかし、外国からの輸入麻疹がありこれからも注意が必要です。

### 3. ワクチンは？

30年前は、はしか、ポリオ、三種混合、BCG等6種類だったワクチンは現在ヒブ、肺炎球菌、B型肝炎、水ぼうそうなど13種類が定期化され、一部は2回接種となり充実しています。これで多くの子どもの命が救われ、合併症から免れています。臼杵市は、独自におたふくかぜワクチンも補助しています。今後は、ロタウィルスワクチンの補助も要望しましょう。

### 4. 子どもたちへの支援と見守りは？

- ① 学校での「特別支援教育」が充実しています。  
平成19年より学校現場で特別支援教育が始まり、発達障害を含む子どもの教育に、手厚い支援をするようになりました。臼杵市教育委員会を中心に、綿密な聞き取り調査と観察を行い、一人一人にあった計画のもとに支援しています。
- ② 5歳児健診は役に立っています。  
3年前より、学校での教育につなげるために、臼杵市独自の5歳児健診として、家庭・園へのアンケート調査、園回りによる観察、発達相談会を行っています。支援のいる子どもを、早い時期から発見し、見守りし小学校に繋げることができています。
- ③ 病児保育利用が増えています。  
6年前に「病児保育室とんぼ」を、とんぼ小児科医院の2階に開設し、初年度は400名弱の利用でしたが、徐々に増え昨年度は1400名の多くの利用がありました。急な支援となっています。利用料金は、食費を1000円と利用しやすくなりました。

裏に続く・・・